

## お知らせ・会務報告

## 編集委員長 6年目を迎えるにあたり

新しい日本甲虫学会の和文誌としてスタートした「さやばねニューシリーズ」は、昨年末 20 号を発行し、本号からは 6 年目を迎えた。当初、毎号 20～40 ページ程度の冊子を想定していたが、それでもそんなに原稿が集まるのだろうか、と心配していた。ところが毎号 60 ページ程度とかなり厚い冊子となっており、原稿も順調に集まってきており、嬉しい誤算であった。これまで大きな遅延もミスもなく定期発行できたのは、編集委員の皆様、貴重な論文を投稿してくださる会員の皆様、ならびに毎回無理な注文を聞いてくださる原印刷株式会社のお陰である。この機会にお礼申し上げる。

「さやばねニューシリーズ」は、言うまでもなく旧鞘翅学会の「甲虫ニュース」と旧甲虫学会の「ねじればね」の後継誌である。また、誌名の「さやばね」は、鞘翅学会の前身の鞘翅目学会の和文誌名を継承したものである。私が甲虫ニュースに初めて投稿したのは修士 2 回生の時だから遅いデビューと言える。自信作を練りに練って投稿した思い出があり、地方同好会誌や「月刊むし」などに比べ、学生にとっては投稿するには敷居が高い雑誌という感覚があった。そしてやはり学会が出している和文誌なので、気品と格調高さ、そしてクオリティーの高さもあった。「さやばねニューシリーズ」を刊行するに当たり、その敷居は低くして、しかし気品やクオリティーは何とか保ちたいとも考えていた。これらを自問自答しながらの 5 年間であった。

「甲虫ニュース」と「ねじればね」の歴史を調べると、表 1 のような編集体制で編集が行われてきた（新里達也氏と林靖彦氏からの情報に基づく）。多くの方が編集に関わり、何とか会誌を盛り上げようと努力されてきたことが判る。私自身が知っているのは、「甲虫ニュース」を妹尾氏と鈴木氏が編集していた頃で、この頃は DTP を印刷所に依頼して紙面を作成していたのだが、原稿が集まりにくかったり原稿の不備があったりと編集作業は大変であったと聞く。DTP 作業を自前で行わないにしろ、大変な編集作業に孤軍奮闘されていたのだ。

「さやばねニューシリーズ」の 5 年目を振り返ると原稿の集まりはよく、その面では悩むことは無かった。これまでに長短約 500 本の原稿を掲載することができた。松田さんによるペニボタルの連載には助けられたし、松田さんの連載が休みのときには、他の分類群の解説記事を投稿頂いたりした。特に海外誌等に属レベルのレビジョンなどを出した若手の研究者にお願いして、その日本語の解説を書いて頂くことはとても有意義だったと思っており、これからも続けていきたい。加えて、会員外からも、土岐さん（ニホンホホビロコメツキモドキ；15 号）と浅野さん（胚子態孵化；11 号）には特定のテーマで解説を書いて頂き、これらも評判が良かった。また、林さんの論文（空中写真画像によるため池の自然度診断；18 号）のように示唆的で速報的な内容の報告は、本誌ならではの感じがしている。この他にも多くの原著論文・短報を投稿頂き、編集していてこちらがわくわくする紙面が作成できていることは、本当に編集者冥利に尽きると常日頃から思っている。

編集委員長として、ぜひお願いしたいことが 2 つある。1 つはこれまで以上の積極的な投稿、特に若手からの投稿を期待したい。本誌は HP 上に投稿の際の原稿作成例を示しており（<http://kochugakkai.sakura.ne.jp/publication/sayabane/sayabane-bibliography.html>）それを上書きするような形で簡単に原稿が作成できるようにしている。投稿に不慣れで躊躇している人も気軽に原稿作成に取り組んで投稿までこぎつけて欲しい。

表 1. 甲虫ニュースならびにねじればねの歴代の編集体制。

甲虫ニュース		ねじればね	
年	編集者	年	編集者
創刊～1973	黒澤良彦, 中臣鎌太郎, 渡辺泰明	1956～1957	河野 洋
1974～1981	木村欣二, 黒澤良彦, 小宮次郎,	1958～1985	後藤光男
	須賀邦耀, 中臣鎌太郎, 渡辺泰明		
1982～1988	岡島秀治, 笠原須磨生	1986～1994	大倉正文
1989～1990	阿部光典, 岡島秀治	1996	林 靖彦
1991～2001	妹尾俊男	1996～2002	林 靖彦, 水野弘造, 伊藤建夫
2001～2002	妹尾俊男, 長谷川道明, 川島逸	2002～2004	林 靖彦, 水野弘造, 伊藤建夫,
	郎, 奥島雄一, 鈴木 互, 吉富博		保科英人
2003～2010	鈴木 互, 長谷川道明, 川島逸	2004～2010	林 靖彦, 水野弘造, 伊藤建夫,
	郎, 奥島雄一, 吉富博		保科英人, 初宿成彦, 谷角素彦

い。もう1つは編集を手伝ってくれる人材の確保である。現在は7名の編集委員により、著者との連絡、原稿のチェック(査読を含む)、版組み(DTPソフトInDesignを使用)、校正、印刷屋との調整などの一連の仕事を行っているが、人手が足りない状況である。特に版組みはInDesignが使えれば誰にでもできる仕事でもある。興味がある会員は連絡して欲しい。

(さやばねニューシリーズ編集委員長 吉富博之)

### 日本甲虫学会 調査観察会のお知らせ

2016年日本甲虫学会の調査観察会を下記の通り新潟県佐渡島にて開催致します。  
経験豊かな方々と現場で懇親できるチャンスです。多くの方のご参加をお待ちしております。会員外の参加も歓迎いたします。日本海の新鮮な幸に美酒・・・調査・観察、懇親を楽しみましょう！

日時：2016年6月4～5日(土・日)

場所：新潟県佐渡島

宿泊先：「敷島荘(七浦海岸)」〒952-1643 新潟県佐渡市稲鯨 1354

電話：0259-76-2640

URL: <http://www.sado-shikishima.com/>

費用：10,000円前後を予定

交通手段：新潟港から佐渡汽船のジェットフォイルにて両津港まで65分(1日9往復)  
敷島荘へは両津港からレンタカー、路線バス・送迎バスを利用。

申し込み方法：連絡先(住所、電話番号(携帯)、E-mail)を添えて下記の連絡先にお申込みください。  
前泊・翌日泊を希望される方はその旨も添えてください。

申し込み先：調査観察会担当幹事 日下部良康

〒224-0013 横浜市都筑区すみれが丘 21-12

電話：045-593-3888(日下部)；E-mail: rin590@tea.ocn.ne.jp

ccアドレス: bigtree@kf7.so-net.ne.jp

\*必ずccアドレス(幹事補佐 大木)の方へも連絡を入れてください。

申し込み期限：5月15日(期日厳守でお願いします)

\*上記の内容の詳細、更新事項につきましては、学会ホームページの催し物覧を参照ください。

(調査観察会担当幹事 日下部良康；幹事補佐 大木 裕)